

# ちょうどいい時に、 ちょうどいい人と



愛知県立岡崎高等学校長

石井 政一 氏

## 教育随想



# 月報 岡崎の教育

平成19年6月1日

# 6月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

教育随想	1
愛知県立岡崎高等学校長 石井 政一氏	
この人に聞く	2
岡崎市難聴・中途失聴者の会会長 羽田野裕子氏	
羅針盤	2
竜海中学校長 大久保慎一	
ふれあい	3
美合小 安藤 仁史	
特集	4
岡崎市「いのちの教育」 アクションプラン	
岡崎市の教育予算	6
お知らせ	8
フォト・ヒストリー	10
六ツ美悠紀斎田まつり (昭和41年)	
この本を	10

団塊の世代が大量に退職を迎える二〇〇七年になりました。産業界では数年前から、熟練した技能者の技を次世代に伝えるシステムの構築に取り組んでいると聞きます。教育界でも、スーパージニア先生などを指名してベテラン教師の技を伝えたり優秀な教師を採用するための特別選考制度を設けたりしています。また、昨年の秋には教育基本法が改正され、教育再生会議・中央教育審議会での審議が急速に進んでいます。これら最近の課題に対処する一方で教育の原点を見据える必要があります。

教師の喜びの原点は生徒の能力を十分に引き出すことにあります。ベテランの教師はそのチャンスがいつなのかを直観的に知っています。そのことについて思い出すことがあります。昭和十七年に卒業された木村資生

(一九二四～一九九四) 先生のことです。先生は生物の進化について分子進化中立説を唱え、突然変異の多くは自然淘汰にほとんど関係ないとを解明し、文化勲章を受章されました。先生はご自身の師弟関係や研究を振り返り、「ちょうどいい時にちょうどいい先生に出会えた」「ちょうどいい時にちょうどいい本を読めた」とよく言われたようです。つまり、研究に行き詰まったり苦しんだりしている時に、天の配分ともいべき、絶妙な時に絶妙な人に遭遇できて研究が進んだことを「ちょうどいい」と表現されています。このようにに師弟双方の気持ちが一一致して、教育の効果が飛躍的に高まる時があります。ベテランの教師はその時を感じ取ることができません。しかし、それは武道でいう口伝に似て、書き残して伝えることは難しいことです。

団塊世代の退職は、前述の「ちょうどいい」というような漠然とした価値を次世代に伝えることの尊さを顕在化させました。本校でもベテラン先生方の知識、授業法、生徒との阿吽の呼吸など、「ちょうどいい」ともいえるべき技を受け継いでいこうと思っています。

(いしい まさかず)



ふるさとシリーズ

## この人に聞く



障害を乗り越え  
力強く生きる



岡崎市難聴・中途失聴者の会会長

羽田野裕子氏

「要約筆記者さんと一緒だと、自信を持って話せるんです」と、すてきな笑顔で話す羽田野さん。襟元には、耳が不自由であることを表す「 earmark」のブローチが留められている。平成十七年に「岡崎市難聴・中途失聴者の会」をつくり、聴覚障害者の自立支援や福祉実践教室への協力など、様々な活動をされている。

「わたし自身は、三歳のときに病気が原因で聴力を失いました。耳が不自由な人にとって、社会はバリアだらけなんです。一見しただけでは健常者と変わらないので、話さないと理解してもらえないのがつらいです。だから、少しでも耳の聞こえない

い人のことを分かってもらいたい、同じように悩んでいる人の力になりたいと思ったのがきっかけでした。」羽田野さんは、両脇にいる長年活動を共にしてきたOHPおかざき要約筆記サークルの土田さん、羽田野さんの娘の亜衣さんが要約筆記したものを、時々確認し、口話で理解しながら取材に答えられていた。

「娘が小学校五年生になるまで、耳が不自由で困っていることを周りの人に言うことができませんでした。しかし、勇気を出して担任の先生に手紙を書いたところ、よく理解してくださり、子供たちの前で話をする機会をいただきました。」

それをきっかけとして、その後、OHPおかざきの協力を得て、市内の小中学校を中心に、福祉実践教室



に参加するようになったそうだ。

「福祉教室が好きなんです。子供たちは素直に受け止めてくれて、話が弾み、とても楽しいです」と話す羽田野さんは、福祉教室では子供の中に積極的に入り、マイクを向けてコミュニケーションを取っている。

それから、聴覚障害者の支援について話が及んだ。

「会ができてからは、聴覚障害者の方が何人か相談に来られるようになりました。これまで一人で悩んでいた方も多く、会を知って明るくなり、外に出ようと思うようになった姿を見て、やってきて本当によかったと思いました。」

さらに、今後のことをお聞きすると、「まだ、障害があつて悩んでいる方や障害にどう対処したらよいか困っている方がいます。もっと多くの方に、聴覚障害のことを知ってもらえるような活動をしていきたいです。」

また、子供のころに始めた書道は今も続けているのですが、もう一度大学に行つて、要約筆記を利用して初めから書道のことを学び直したいと思つています。」

そう語る羽田野さんの言葉からは、自らの障害を乗り越え、前向きに生きようとする力強さが感じられた。

氏名 はたの ひろこ  
住所 洞町鷹野一四一一四

## 教師の多忙化

竜海中学校長 大久保慎一

嫌な文章に出会った。吐き気がする。なのに、何度も読み返している。自分がある。その文章はこうだ。

「……こうした教師の多忙化のなかで、授業の準備や研究の時間が削られていく。授業ですこしくらい手を抜いてもその影響はすぐにはわからない。ある研究会で、現役の小学校教師から『忙しすぎるときに時間を削るのは授業準備だ。子どもにはわからないし、誰からも文句を言われないから』といった話を聞いたことがある……」（大村はま／荻谷剛彦・夏子「教えることの復権」）

昨今の多忙化には閉口している。とりわけ夥しいほどの会議と文書対





## お母さんパワーあつてこそ

美合小 安藤 仁史

「A君、B君を追いかけて」「B君、逃げて逃げて」お母さんたちの声を合図に自閉症のA男がB男を追う。ただし、むきにならないのがA男らしいところ。B男が床に置いたフープの一つに逃げ込むと、それまでそのフープの中にいたお母さんが、替わりに追われる。そのお母さんが別のフープに入ると、そこにいたC男が今度は追われる番である。これは「追い出しおに」という遊びの一端である。遊んでいるのは特別支援学級三組と四組の五人の子供たちと教師、そしてお母さんたちである。

三組・四組では二年前から、「あそぼう会」という時間を設けてきた。これはお母さんたちの願いから生まれたプログラムである。三組・四組の子は、通常学級の子と遊びたいと



願っても、ルールが理解できないとかスピードについていけないなどの理由で、一緒に楽しむことが難しい。したがって、子供どうしで遊ぶ機会は非常に限られる。「それじゃあ寂しいし、子供の成長にも良いとはいえないよね」と皆が考え、その状況を少しでも改めたいと始めたものだ。月に一、二回ずつ、集団でルールのある遊びを楽しむ授業である。ところが、子供だけでは人数が少ないし、ルールも理解しにくい。遊びが成立しにくい。そこでお母さんたちの出番となった。義務ではないが、毎回、必ず何人か参加して下さる。ときには卒業生や近隣の小学校の特別支援学級のお母さんの参加もあり、多いときは、子供五人に

対し大人が十数人ということもあつた。子供たちのために参加し、場を盛り上げてくださるお母さんたちのおかげで、「あそぼう会」には笑い絶えない。障害児教育がより効果的に機能するには、家庭と学校の連携が欠かせない。本人や保護者の願いを受けて実行可能な目標を設定し、手立てを考え、役割を分担する。「あそぼう会」は、教師がプログラムを考えて場をリードし、保護者が支援する役割を担っている。

A男の保護者も、友だちと遊べるようになってほしいと願っている。最初は「あそぼう会」の場にいることも困難だったA男が、回を重ねるにつれて、手をつなげば参加できるようになり、また、しっぽり遊びでは、しっぽを取れるようになった。今ではチーム対抗のボールゲームでボールを取ることができ、さらには、ゴールにシュートするまでになった。ここに至るまでには、A男のお母さんをはじめ、三組・四組のお母さんたちが、子供たちにほどよいストレスと喜びを感じさせる絶妙なバランス感覚で遊びを成立させてくれた時間があった。「あそぼう会」をはじめ美合小の特別支援学級は、お母さんたちの熱意とパワーに支えられている。

応である。それぞれの立場の者が、よりよい教育を求めて懸命（本人はそう思っている）に企画する。さもなくば、教育改革に乗り遅れてしまうと思うだろうし、追究されれば返答に困るから防備もしたくなる。だから、あらゆるコストやリスクを無視して現場に下りてくる。かくして教育は、屋上屋を架すがごとき始末や調査が蔓延（まんえん）してくる。

かつて、岡崎の教師は「子供を信じ、子供に尽くす」が合言葉だった。否、今もその気概で奮闘している。子供のことで忙しいのは何とも苦にならない。疲れも感じない。それが教師の性（さが）というものだ。充実感さえあれば誰も文句は言わない。だが、無意味と思われるような会議や調査や研修には辟易（へきえき）する。憤懣（ふんまん）やるかたない。

教育改革が進んでいく。だが、一方で潜在的な逆機能が現れ始めている。その一つが多忙化でもある。授業より膨大な時間が費やされる改革なんてあるのだろうか。

昨年、全国的ないじめにかかわる自殺が相次いで起こった。本市においても各小中学校でいじめが報告されており、中学生がかかわったホームレス連続襲撃事件も発生した。再びこのようなことが起きないように、その解決策として「岡崎市『いのちの教育』アクションプラン推進協議会」が立ち上げられる。これまで、本市では、各小中学校において様々な機会を通して人権教育にかかわる取組がなされてきた。しかし、次のような課題もある。

- ・市としての取組が単発的で学校・家庭・地域との連携が十分でない。
- ・児童・生徒が発達段階に応じた、人権の意義・内容等について理解するカリキュラムや年間指導計画が不十分である。

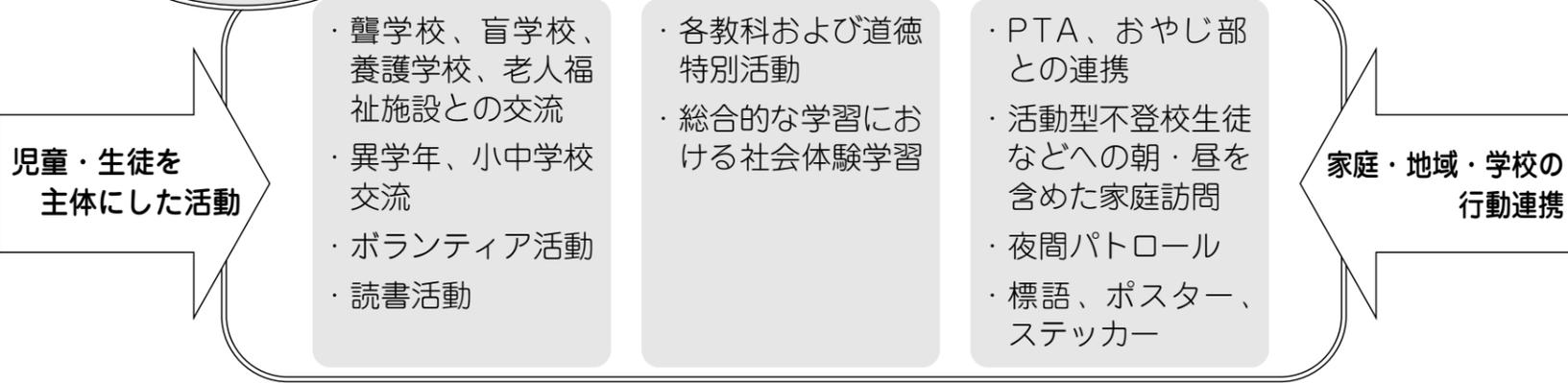
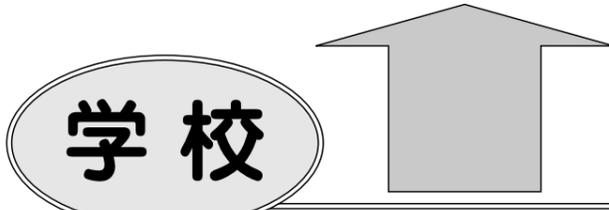
そこで、人権教育や生徒指導に焦点を当てた取組を「いのちの教育」とし、え、自分の大切さとともに他の人（児童・生徒・高齢者・障害者・社会的弱者など）の大切さを認めることができる児童・生徒の育成を目標として、活動が始められようとしている。

学校・家庭・地域・行政の四者が一丸となって「いのちの教育」を推進することによって、子供たちの健全育成がさらに図られるものと期待されている。



▲異学年・小中学校交流活動（常磐小・常磐中）

**自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる児童生徒の育成**



**いのちの教育推進に関する提言（アピール文）**



◀老人福祉施設との交流（岡崎小）



◀岡崎聾学校との交流（岩津小）



◀学区ごみ拾い（竜美丘小）



◀いのちの教育推進委員会



▲岡崎市中学校区児童・生徒健全育成連合協議会

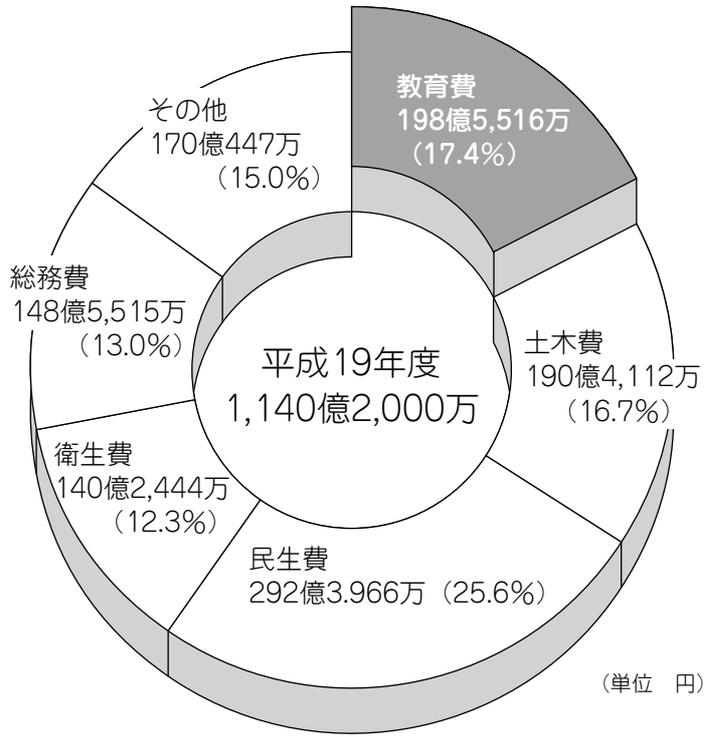


▲SSVパトロール（矢作東小）



▲警察との行動連携 不審者対応訓練（南中）

〈一般会計予算〉



人・水・緑が輝く  
活気に満ちたまちづくり

平成十九年度  
岡崎市の教育予算



▲ 岩津中屋内運動場



▲ 六ツ美北中増築校舎

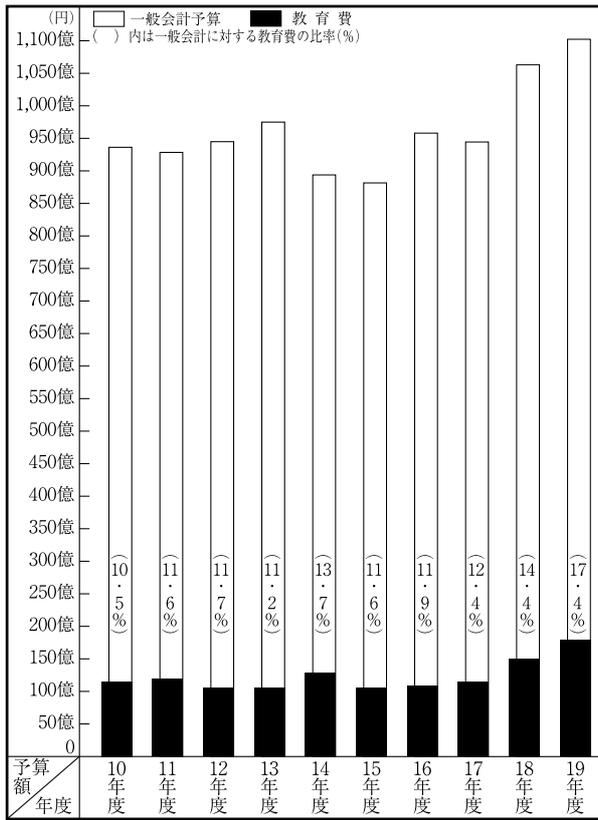


▲ 梅園小屋内運動場

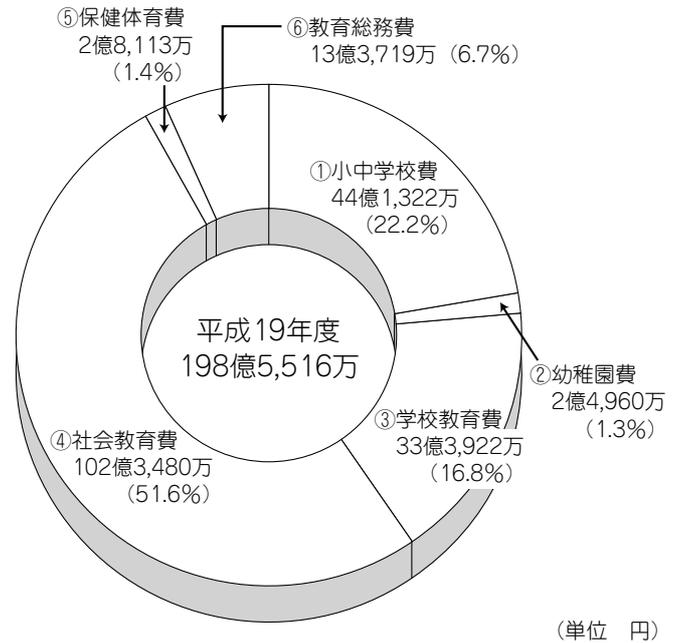


▲ 大門小増築校舎

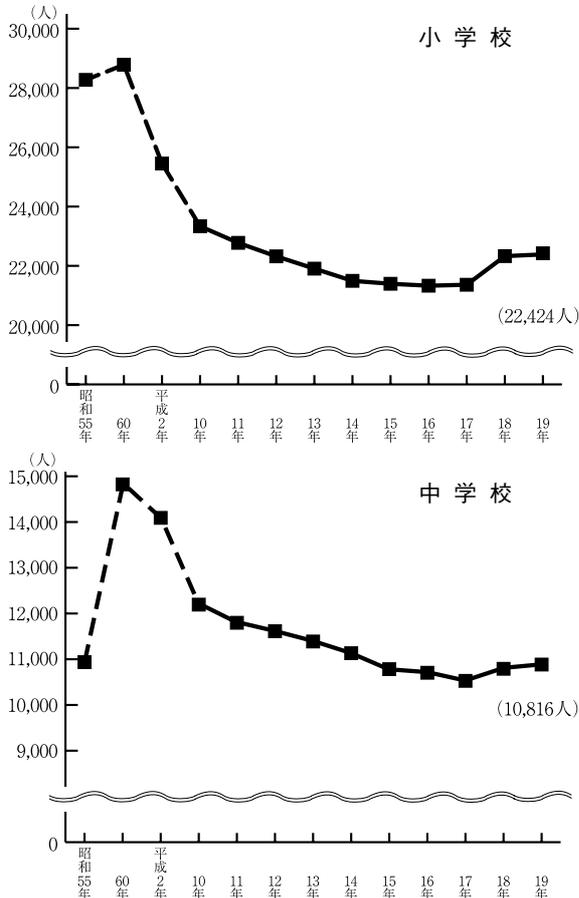
◆ 一般会計予算と教育費の推移



〈教育費の内訳〉



◆ 児童、生徒数の推移 (数字は毎年5月1日現在)



◆平成19年度のあらまし◆

- ①小中学校費
  - ・校舎増築 (竜美丘小)
  - ・校舎屋上改修 (連尺小・大樹寺小・南中)
  - ・屋内運動場改築 (美川中)
  - ・運動場整備 (福岡小・六ツ美南部小)
  - ・プールサイド改修 (形埜小)
  - ・便所改修 (福岡小・甲山中)
  - ・校内LAN整備 (福岡中・北中・六ツ美中・南中)
  - ・ドアホン設置 (小学校22校)
  - ・外構整備 (広幡小)
  - ・門扉整備 (小学校8校・中学校1校)
  - ・下水処理切替整備 (矢作西小・美川中・矢作中)
  - ・校舎耐震補強 (竜美丘小・本宿小・城南小・南中)
  - ・プール改築 (福岡小)
  - ・擁壁補強 (竜海中)
- ②幼稚園費
  - ・園庭整備 (広幡幼)
- ③学校教育費
  - ・行事開催事業委託及び指導研修
  - ・教育の振興, 研究助成
  - ・児童生徒の健康保持
  - ・小中学校各種スポーツ大会開催
  - ・教員補助者活用事業
  - ・日本語教育講師の増員
- ④社会教育費
  - ・岡崎市民芸術文化行事開催事業
  - ・図書館情報システム保守委託
  - ・図書館新サービス推進調査委託
  - ・視聴覚ライブラリーの管理運営
  - ・少年自然の家の管理運営 (遊歩道階段整備工事)
  - ・生涯学習事業
  - ・社会教育学級事業
  - ・市民センター管理運営及び施設改修
  - ・文化財保護事業
  - ・北野廃寺跡整備
  - ・康生地区整備推進委託建設工事
- ⑤保健体育費
  - ・体育振興事業
  - ・体育館施設整備事業
- ⑥教育総務費
  - ・私立高校授業料補助金
  - ・私立幼稚園園奨励費補助金
  - ・奨学資金支給, 貸付事業



● 教育最新情報

「あいち・出会いと体験の道場」の推進

岡崎市立竜南中学校

【活動日程と概要】

① 自然体験学習における農業・林業体験学習（六月）

長野県白馬村・小谷村で二泊三日の自然体験学習を実施。その中で、近在ではなかなか経験できない農業と林業の体験活動を行った。農業体験としては手植えによる田植えを、林業体験としては下草刈り、枝打ち、ナメコの植菌作業を行った。



▲ 白馬村での田植え体験

② 適性に合った業種の職業調べ（九月～十月）

図書資料やインターネットのウェブ資料から、自分の適性に合った職業の内容とその職業に就くために必要な資格などを調べた。また、調べた内容を十一月月上旬に行われた文化祭の場で紙上発表した。

③ 職場体験学習の計画と実施（十一月～一月）

職業適性検査や職業調べを踏まえ、生徒に希望する業種を選択させた。そして、生徒の希望に見合った事業所のアポイントメントを取り、百五



▲ 動物病院での実習

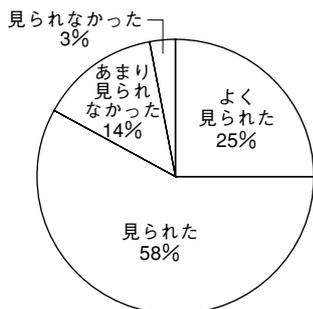
十三の受入事業所を決定した。体験学習は原則的に一月十七日から十九日の連続する三日間を活動日とした。

④ 職場体験学習のまとめ（二月～三月）

職場体験学習の成果をまとめ、学級で発表会をもったり学年発表会を開催したりした。単に活動した内容を紹介するのではなく、体験した仕事の魅力を発表し、働くことの意味について考えた。

【成果】

左は、三日間の生徒の意識の変化について、体験学習後に事業所の担当者の方にアンケート形式で伺った結果である。一日目は指示待ちで言葉も少なかったが、二日目、三日目となるにしたがつて積極性が増し、質問を出したり率先して作業に取り組みんだりする姿が見られるようになった。



▲ 生徒の意識の変化

● 教科書展示会の開催

教科書展示会が県内二十一所の教科書センターで開催される。

教科書は四年に一度改訂されている。小学校は平成十七年度に改訂され、三年目、中学校は平成十八年度に改訂され、二年目になる。

次期改訂は新しい指導要領の動向によって変更される可能性があり、現段階では明らかになっていないようである。展示会に出品される様々な教科書を実際に見学して、研修を深めたい。

なお、場所や日程については次の通りである。

○ 展示会場（岡崎地区）

岡崎市立中央図書館

岡崎市明大寺町茶園十一一三

☎ 五二―二二五―

○ 展示期間

平成十九年六月十二日（火）

～七月五日（木）

○ 休館日

六月十五日（金）・十八日（月）

・二十五日（月）

七月二日（月）

○ 展示教科書

検定済みの教科書

● 芸術鑑賞会

感性を育む心の教育推進の一環として、本年度も芸術鑑賞会を開催する。

本年度は、名作ミュージカル「ピーターパンとウエンディ」を予定している。この作品には、子供たちが楽しい冒険の旅をとおして、優しい心、思いやりのある心をもって友情を育み、勇気ある人間になってもらいたいという願いがこめられている。

小学生を対象に、親子での参加を募っていくので、多くの子供が楽しめるよう、積極的な呼びかけを期待する。

○ 日時

八月九日（木）

○ 場所

市民会館

○ 上演作品

ミュージカル「ピーターパンとウエンディ」

劇団「ポップラ座」



●表 彰

◆国土と交通に関する図画・

作文(作文の部)

最優秀賞 矢作中一年 加藤 優

◆第八回創作童話・絵本・デジタル絵本コンテスト

経済産業大臣奨励賞

竜海中二年 天野佑基

優秀作品賞

竜海中二年 長井尚哉

◆第五回ジュニア打楽器アンサンブルコンクール全国大会

打楽器六重奏

優秀賞 美川中学校

◆第七回東海ブロック中学生バレーボール新人大会

男子の部

準優勝 竜海中学校

◆第二回東海四県中学校選抜剣道錬成会

男子の部

第三位 竜海中学校

女子の部

敢闘賞 矢作北中学校

◆FBC春の学校花壇設計図コンクール

県知事賞 根石小学校

◆中日管楽器個人・重奏コンテスト(県大会)

個人の部

サキソフォン

優秀賞 岩津中三年 犬塚清子

優良賞 竜海中三年 浅井愛美  
クラリネット

優秀賞 竜海中三年 中根綾子

優良賞 岩津中三年 梅村 光

ホルン

優秀賞 岩津中三年 谷口裕太

ファゴット

優良賞 竜海中三年 天野温香

●重奏の部

フルート三重奏

優秀賞 岩津中学校

竜海中学校

サキソフォン四重奏

優秀賞 岩津中学校

金管八重奏 竜海中学校

優秀賞 竜海中学校

金管十重奏

優秀賞 岩津中学校

打楽器五重奏

優秀賞 竜海中学校

◆第十四回愛知県ヴォーカルアンサンブルコンテスト

●中学校の部

金賞 竜海中合唱部

金賞 矢作北中三年音楽部

銀賞 矢作北中二年音楽部

●小中学校のようす

平成十九年度岡崎市内の小中学校の規模がまとまった。

五月一日現在の学校や学級の数、児童生徒と教職員数を表にした。

本年度の市独自予算による教員補助者の数は、昨年度より十二名増え、百十六名となった。また、退職後の教員三名が再任用教員として本年度も活躍している。

○少人数学級について

平成十六年度から、愛知県内の小学校一年生の学級は三十五人以下になっている。

今年度、岡崎市では次の十校が対象となった。

梅園小、根石小、緑丘小  
三島小、竜美丘小、広幡小  
山中小、本宿小、矢作西小  
矢作南小、六ツ美南部小

●学校・学級の規模(市内平均)

	小学校	中学校
1校当たり児童・生徒数	449人	569人
1校当たり学級数	16学級	17学級
1学級当たり児童・生徒数	28人	33人

●学年別児童・生徒数(人)

	小 学 校						中 学 校		
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
男	1,925	1,961	1,988	1,898	1,883	1,887	1,877	1,826	1,819
女	1,840	1,798	1,830	1,815	1,822	1,777	1,792	1,781	1,721
計	3,765	3,759	3,818	3,713	3,705	3,664	3,669	3,607	3,540

●児童・生徒・教職員数

区 分	学校数 (校)	学級 <特別支援> (学級)	児童・生徒 (人)			校長・教員(人) *養護教員・非常勤講師を含む 計	養護教員 (再計)(人)	事務職員 (人)	栄養職員 (人)
			男	女	計				
小学校	50	788<67>	11,542	10,882	22,424	1,167	53	51	11
中学校	19	326<29>	5,522	5,294	10,816	706	23	26	4
合計	69	1,114<96>	17,064	16,176	33,240	1,873	76	77	15
昨年度合計	69	1,115<93>	16,937	16,100	33,037	1,889	76	78	15

《お詫びと訂正》  
五月号「この人に聞く」の中の「外山」は、「外田山」の誤りでした。謹んでお詫びし、訂正いたします。

・カ  
ツ  
ト  
北  
中  
早  
川  
周  
宏

## 六ツ美悠紀斎田まつり (昭和41年)

写真提供：六ツ美南部小学校

大正四年、愛知県六ツ美中島で大正年号の制定を記念した「大嘗祭悠紀斎田点定の儀」に伴う大イベントが、七万県民の参集を得て盛大に挙行された。

以後九十余年、「六ツ美悠紀斎田保存会」が中心となって諸々の伝承活動に取り組んでいる。昭和四十一年に岡崎市無形民族文化財の指定を受けた「悠紀斎田お田植えまつり」が毎年六月に行われ、学区の小中学生も唄や踊り、演奏などで積極的に参加している。

「郷土を愛し、郷土の伝承を守る心を育てたい」との学区民の願いに、小中学生も心を熱くして参加する活動は教育的であり、尊いものである。市内各学区の学校・地域一体の特色ある伝承活動の魁ともいえる意義深い活動といえよう。



## 岡崎の教育



七変化と別名を持つ紫陽花あじさいは、その名の通り、様々な色の花を咲かせる。土壌が酸性だと青、アルカリ性だと赤くなると言われている。

しとしとと雨が降る校庭に咲く紫陽花。じっくりとその花の色の変化を楽しんでみようと思う。

## シオ スア

スリーマイル島原発（米）の二十八年前の放射能漏れ事故。電力会社の隠蔽が被害を大きくした。当時から市政を預かる市長は、その時の怒りを今も忘れないと言う。今の日本もしかし。犯してしまった失敗より、それを隠すことの罪の深さを肝に銘じたい。

岡崎市「いのちの教育」アクションプラン。学校・家庭・地域・行政が一体となつて、子供たちのさらなる健全育成を図るべく様々な活動が始動した。目の前の子供たちに寄り添い、そして、じっくりと向き合いながら、「自他を大切にし、認める心」を育てていきたい。

明るい笑顔が、水の中ではじける。プール開きが行われ、水泳シーズンのスタートである。全身真っ黒になりながら、今年こそはと、自分の立てた目標に向かって努力する。そんな子供たちに応えるべく、我々教師も精一杯努力していきたいと考える。



- \*坂村真民一日一言 坂村 真民 致知出版 ￥1143
- \*吉田松陰一日一言 川口 雅昭 編 致知出版 ￥1143
- \*あとからくる君たちへ伝えたいこと 鍵山秀三郎 致知出版 ￥1000
- \*子どもに贈りたい130の言葉 佐々木勝男 編 民衆社 ￥1575

\*悲鳴をあげる学校 小野田正利 旬報社 ￥1400

“学校現場に元気と自信を！”をモットーに、徹底して学校現場「学校のいまとこれから」をていねいに分析し提言しており、担任・役職者には必読の書だ。

学校現場に寄せられるイチャモン（無理難題要求）の急増現象への対応について、ストレートな提言が気持ちよく入ってくる。学校・保護者・地域とがお互いの関係をつくる形で要求の出し方をするという視点に立った「課題解決＝対応力」を学ぶことができる。